

# 令和4年度自己評価結果公表シート

学校法人大阪愛徳学園  
大阪愛徳幼稚園

## ○本園の教育目標

「神様を敬い、人々を愛する勇気ある子どもになりましょう。」を教育の目標として、子どもたち一人ひとりが世界でたった一人しかいない自分に気づき、神さまや周りの人たちから愛されていること、自分も人を大切にすることを学んでほしいと願い日々の保育に取り組む。

また、学校教育の目的、目標を達成するために次の基本方針によって幼児教育に取り組んでいる。

1. 健康と心身の調和的発達
2. 協調・自主・自立の精神
3. 道徳性の芽生えを育む
4. 基本的生活習慣のしつけ
5. 豊かな情操を育てる
6. 国際人としての礎を築く

## 1. 本年度 重点的に取り組む目標および計画

喜んで園生活をのびのびと過ごし、様々なことに興味や関心を持ち、喜んだり、悲しんだりすること、新しい発見や感動を得ながら豊かな心を育てていく。園児自らが、自身の秘められた力に気づき、育て、成長させていけるような教育環境を整え、心身共に充実をはかっていくことを重点事項とする。評価項目に沿って自己点検・自己評価を実施することで、教員自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の改善、施設の改善に主体的に取り組んでいく。

## 2. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	取組状況
指導計画の見直しを行い、保育内容の充実を図る	・教育要領の理解を深め、年間カリキュラムと照らし合わせながら、より一層詳しく見直し、改善を行った。 ・4学年の連続性を見直し、各学年の状況や課題を報告し検討した。子どもの実態に即した教育内容にするように努めている。 ・建学の精神（人を敬い、人を愛する心を育て、勇気ある子どもになりましょう）の徹底に努めている。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる	・幼児の発達をとらえるため、園内研修を行い、日々の子どもの姿について話し合う機会を設けている。お互いの気づきや意見にも耳を傾け、子どもの実態を把握し、カリキュラムや日案作成に反映させるようにしている。 ・一人ひとりの子どもの良さを認め、教員が客観的に見る目を養うように努めている。 ・個々のカリキュラムについては、特別支援の必要な子どもに対して支援センターなどと連携し、カリキュラムを立てている。様子を見ながら成長に応じたの援助を行い、担任だけではなく教職員全体でのサポートを心がけている。
学期ごとに各クラスのカリキュラムおよび保育の成果	・各クラスで月や週の目標を定め、毎学期ごとに達成状況・継続状況を報告し合うように努めている。

と課題を報告する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽教育の一環である和太鼓の充実を図ることで、精神教育を高めるように努めた。</li> <li>・全学年、ネイティブ講師週3回遊びながら学べる英語教育を実施した。</li> <li>・音楽教育の一環である和太鼓は、リズムの確立と心をひとつにする精神、そして礼儀を覚えるように努めた。</li> <li>・より一層の保育の充実を図るため、創意工夫し、反省を活かし改善する努力に留意した。</li> </ul>
保護者とのコミュニケーションをはかり、共に子どもの育ちに向き合うことが出来るような信頼関係を築いていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の報告に加え、保護者との個人懇談の機会を定期的に行い、回数を増やし、保護者の希望、要望があれば都度実施している。また、普段の様子を見てもらうため保育参観を実施している。</li> <li>・大きな行事については、保護者の意見を伺い、園の考え方も示しつつ、改善すべきものは改善するように取り組んでいる。</li> <li>・苦情や要望があった場合は早急に対応し、解決に向け、具体策を実行している。</li> </ul>
教員としての育成に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容の充実を図るため、研修に積極的に参加し、また得た情報は教員間で共有した。その中で、課題や目標をそれぞれが見つけることが出来た。</li> <li>園児のいない夏休み期間中には、園内研修を行い保育の質の向上を図った。</li> <li>・子どもの理解や保護者の対応について臨床心理士と話す機会を持ち、保育に活かした。また子ども支援課や市の支援センターとの繋がりを密に持ち、子どもの状態を見守り、子どもとその家族対応について連絡を取り合っていた。市や小学校連携など地域や社会への繋がりを学び考える大切な機会となった。</li> <li>・教育実習生を受け入れ、学びたい内容・体験したい要望に添いつつ、衛生面に特に配慮しながら学び学びの良い機会になるよう個人の思いを尊重した実習を行った。</li> <li>・教職員の勤務体制の改善を図り、今後長期継続勤務が出来るよう、職場環境の見直し、残業の削減に努めた。</li> <li>・キリスト教の幼稚園として、教職員間の一致と、互いの交わりを大切にし、一人ひとりの存在が大切であることが教育の原点になるとの意識を深めるために教職員の心の教育・養成に努めた。隔月カトリック司祭による聖書研究も実施した。</li> </ul>
防災・安全意識の向上に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の災害・防災・防犯実施計画を立て、それぞれの訓練を行い、命の大切さを伝え、防災・防犯意識を高める指導を行った。教職員は実施状況で、感じた気付きや反省点を話し合い、災害マニュアルの見直しを行い、教員間の一致と、意識・知識共に自分自身の心得改善向上に努めた。また備蓄品の点検や持ち出し袋の見直し、改善を行った。</li> <li>・教職員対象には「さすまた」の使い方など、不審者侵入時の訓練・消火訓練を消防署職員の指導のもと行い、対応を学んだ。</li> <li>・教職員で週1回遊具の点検を行い、破損などないか☑項目の確認を行った。</li> </ul>
保健・衛生管理に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師による身長・体重の測定を毎月行い、子どもたちの発育状況の把握をすると共に、検診（内科・歯科）は園医による検診、その他、視力・尿検査を行い、健康</li> </ul>

	<p>管理に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々子どもの健康状態を観察し、異変や疾病の疑いが見られた場合は看護師が把握の上、直ちに保護者に連絡を取り、医療機関の受診を勧めた。また、毎月「保健だより」を発行し、保護者に留意すべき事項を知らせ、健康への啓発を行うと共に、感染症による欠席者が出た場合には知らせ、蔓延の防止に努めた。</li> <li>・自園給食を通して、食の大切さ・食育の大切さ（心身の健康）について園児をはじめ、家庭に浸透させるため管理栄養士が「食育だより」を毎月発行し、食に対する意識向上と、園と家庭の連携を作りに努めた。また園児たちが育てた野菜の皮むきや、種取りの食育体験を通じて、命について考える機会を得、毎日の給食はアプリを通して保護者が閲覧出来るようにしている。</li> <li>・AED の使用方法など定期的に研修を行い、それぞれの知識・意識を高めるよう努めた。</li> <li>・コロナ対策の徹底に努め、体温計の充実、消毒、換気、空気清浄機、アクリル板を設置し、感染拡大防止に努めた。また、マスク、手洗い、うがいの徹底など、コロナ対策のマニュアルも作成した。その他、保護者の協力を同時にお願ひし、園と家庭の連携をはかった。</li> <li>・感染症対策のため、朝夕の保育室及び階段や施設の消毒に努め、職員で対策について何度も話し合い、改善、実行した。</li> </ul>
<p>子育て支援の充実を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育は年々保護者の就労増加に伴い増えている中、午前保育、長期休み中のお弁当持参をお願いしていたが希望者のみ給食提供を行い、おやつも手作りおやつの提供を行った。また、満3と年少で預かり保育を利用する園児が例年よりも多いため、預かり保育担当者とクラス担任との連携を密に取り、異年齢保育での環境に不安のないよう、子どもの心身のケアに努めた。異年齢保育の発達のねらいを持って保育内容の質の向上に努め、また子どもたちの上下の関わりを通しての協調性、自主性など様々な心の成長を見守り育んだ。</li> <li>・未就園児教室「うさちゃん教室」は週2回行い、集団生活を経験する中で自立心の芽生えを育み、スムーズに入園生活を過ごせるよう指導、援助した。子ども自身がやる気を持って何でも取り組むなどの成長がうかがえ、成果が見られた。</li> <li>・未就園児親子教室「こあら教室」は今年度から月2回の開催で2回とも違うプログラムを組み、幅広く参加出来るようにした事で、定期的に参加する親子が増えた。</li> <li>・併せて一層細やかなカリキュラムを立て、アンケートを行い、保護者の声を活かし、見直し・改善を行い、保育の充実に努めた。</li> </ul>

### 3. 学校評価の具体的な目標や計画への総合的な評価結果

評価項目に添って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の改善、施設の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

#### 4. 今後取り組むべき課題

幼稚園の状況を踏まえて、中長期的なビジョンと計画を策定する	・社会的ニーズの変化に対応する幼稚園のあり方、求められているニーズにどのように応えていくか、状況把握と必要性を具体的に検討する。令和5年度は英語教育に力を注ぎつつ、保育の質向上のため研修や職場環境を整え、教職員が子ども一人ひとり向き合っって保育が出来るよう改善を図っていく。
危機管理	・不審者、地震などの災害に備えた教職員の意識向上と、危機管理マニュアルを都度見直し、改善の作成を行う。 ・アレルギー対応を万全にするため定期的に講習会を開くなど教職員への意識向上と実践に力を注ぐ。
職場環境の充実	・勤務体制を見直し、改善を行い、より一層働きやすい職場環境を目指す。
地域社会との連携の充実をはかる	・子どもたちを取り巻く様々な環境を把握し、寄り添い、十分に理解するよう努め、子どもや保護者の支援につながるよう努力する。 ・地域と幼稚園が相互理解を深められるよう、交流の場出来るだけ参加し、市主催の清掃活動に積極的に参加する。幼少連携の充実を図る行事への参加によって、児童、園児の心の交流で子どもたちの成長に役立てたいと願っている。

\* 学校関係者の評価

◎ 学校関係者から、教育・保育実勢は概ね妥当であると認められた。

創立して 67 年、キリスト教の精神に基づき豊かな人間性を育むように教育目標を設定し、園児の発達状況と保護者の理解と協力によって順調に保育実践が行われています。

園児の心身の健康を保つ為、様々な対策が取られており、とりわけ自園給食では、月 1 回の会議を含め調理員と綿密な計画のもとメニューを作成しています。また、玉ねぎや人参、大根など子ども自身が野菜を育て、収穫し食するなど、様々な体験を通じて食べ物への興味や関心を育むことに力を入れています。

また令和 4 年度から正課で英語カリキュラム GrapeSEED を導入し、週 3 回ネイティブ講師によって行いました。今では英語の歌を自然と口ずさむ等、楽しく学んでいるようです。令和 5 年度より英語の課外を取り入れ、卒園児向けの GrapeSEED、在園児向けの「英語であそぼう」を行い、多くの園児が参加し、英語教育に関して保護者の理解が高まっているように思います。

預かり保育では午前保育と長期休み中昼食が家からお弁当を持参していましたが、以前から給食の提供をしてほしいと保護者からの声があり希望者に給食の提供を行いました。保護者もより預かり保育が利用しやすくなったという意見があり、また週 4 回の手作りおやつも子どもたちから好評です。

令和 4 年度の年間行事は、縮小ながらも多くの行事は行われていました。ただコロナ禍を経て様々な環境が変わり、今まで通りで行うのではなく、今の状況や環境にあった方法に変更できるとことは変更するなど、見直しが必要になっているかと思いません。